

レイアウト：縦書き  
余白：上下 31mm 左 28mm 右 29mm  
フォントサイズ 10.5pt 文字数 40 字 行数 34 行  
「標準」スタイルは行間固定値 20pt  
体裁－文字の配置：中央揃え

文字色「白」  
蛍光ペンの色「黒」

「ホーム」→「段落：拡張書式」→「縦中横」

「、」は「ホーム」→「フォント」→「詳細設定」で「文字間隔：狭く 6pt」  
文字幅が 0 になる。

普通の□の文字  
「しかく」で変換すると出てくる  
文字サイズ 12pt 行間固定値 10pt

游ゴシック  
Medium  
14pt

古文・漢文プリント

次の古文の勉強をしましょう

游ゴシック  
Medium

「挿入」→「図：図形」→「四角形：正方形／長方形」  
線の太さ 0.75pt

カタカナは変換前に F7 を押す。

☐などは「ホーム」→「フォント：囲い文字（囲み線ではない）」

①は「1」と打って変換

古文の注釈はテキストボックスを使用。  
「テキストボックスの枠」と「周囲の文字」の間隔は上が 10mm

今は昔、竹取の翁おきなといふ者あり☐けり。野山に①まじりて竹を取りつつ、よろずのことに使つかひけり。名をば、②讚岐の造☐となむ言ひける。その竹の中に、本光る竹なむ一筋ありける。③あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光☐たり。

竹取物語より

①②の言葉の意味を書きましよう

③の読みを書きましよう

次の漢文の勉強をしましょう

游ゴシック  
Medium

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：大かっこ」  
図形の枠線は黒  
Shift を押しながら回転して正確に 90° 回転させる。  
位置の微調整はカーソル移動キー

「挿入」→「図：図形」→「四角形：正方形／長方形」  
線の太さ 0.75pt

「挿入」→「図：図形」→「線：直線」  
線の太さ 0.75pt  
shift キー使用で水平に引く

古文用に 2 つの段落スタイルを定義  
本文：左インデント 2 字 行間固定値 30pt 体裁－文字の配置：中央揃え  
注釈：フォント 9pt ぶら下げ 1 字 行間固定値 12pt

古文中の ①☐③用に文字スタイルを定義  
フォントサイズ 7pt 文字位置上げる 6pt

子曰いはク、学シ而ニ時ニ習フ之コレヲ、不ズ亦また樂よろこばしカラヤ。有リ朋とも自より遠ニ方タル来上、不ニ亦シ樂シ一シ乎カラ。人①不レ知シ而レ不レ慍い、  
不レ亦シ君くん子シ乎ト。

論語 学而より

①の書き下し文を書きましよう

□の適切な場所に返り点を付けなさい

文字は「来」「上」「空」「白」の順で並んでいる。  
「、」に対して「文字間隔：狭く 6pt」。文字幅が 0 になる

10.5pt

漢文用に 3 つの段落スタイルを定義  
ルビ：左インデント 2 字 フォントサイズ 6pt 行間固定値 9pt  
漢字：左インデント 2 字 フォントサイズ 12pt 行間固定値 12pt  
体裁－文字の配置：中央揃え  
行間用：左インデント 2 字 フォントサイズ 12pt 行間固定値 18pt

返り点用に文字スタイルを定義  
フォントサイズ 6pt 文字位置下げる 3pt

古文と漢文の本文は「新訂 国語 I 教育出版株式会社 昭和 60 年 1 月 20 日 発行」より引用（このテキストボックスは入力不要）